

国際比較研究の枠組み構築

—研究対象設定を中心に—

少子高齢化の深刻とともに社会福祉は多様化の時代を迎える。ここで比較研究は積極的な意義をもつかと考えられる。外国に関する研究の意義、当然、隣国の最新事情を伝えることは一つの意義であるが、それだけにとどまらない。他国の事例は、日本における政策議論に多くのヒントを提供しうる。

第39回若手研究者・院生情報交換会では、国際比較研究の枠組みをテーマとし、先輩研究者にご自身の研究における研究対象設定のパターンについて報告していただき、多様な研究スタイルについて考えていきたい。国際比較研究に関心をもつ多くの会員の出席を歓迎します。

▶ 日時：2017年1月21日(土) 14:00-17:00 (無料)

▶ 場所：同志社大学新町キャンパス「溪水館1階会議室」

14:00-14:05 <開会挨拶> 黒木保博 (同志社大学教授)

14:05-14:45 <基調講演> 「比較研究の枠組み構築について」



陸麗君 (華東理工大学客員研究員)

- ・北京大学社会学部卒。
- ・一橋大学社会学研究科博士課程修了、社会学博士。
- ・華東理工大学社会学部准教授を経て、2015年4月より華東理工大学客員研究員。
- ・同志社大学客員研究員 (2015.9-2016.10)。
- ・専門は地域社会学、日中地域社会の比較研究、華僑研究。

14:45-16:05 <報告>

- ・「日本の理論枠組みを用いて母国の実態をどう分析するのか」

羅佳 (四国学院大学社会福祉学部准教授)

- ・「虐待の連鎖は断ち切れるのか—日本の高齢者福祉施設を中心に—」

任貞美 (同志社大学社会学研究科博士後期課程)

- ・「留学経験から母国の状況をより客観的にみる」

姜民護 (同志社大学社会学研究科博士後期課程)

16:05-16:15 <休憩> 16:15-16:55 <質疑応答>

16:55-17:00 <総括> 木原活信 (同志社大学教授)